

令和6年度 第1回 野々市市子ども・子育て会議
会議録（要旨）

日 時：令和6年5月29日（水）
午後7時～
場 所：市役所2階201会議室

1 出席委員 全体会議 17人（欠席1人）

2 配布資料

- 資料1 子ども・も子育て会議委員名簿
- 資料2 野々市市子ども・子育て支援事業計画の実績について
- 資料3 野々市市_就学前児童保護者調査票 案
- 資料4 野々市市_小学生児童保護者調査票 案
- 資料5 野々市市子どもの生活実態調査（子ども用）案
- 資料6 野々市市子どもの生活実態調査（保護者用）案
- 資料7 野々市市若者アンケート調査票 案
- 資料8 令和6年度子ども・子育て会議スケジュール

3 会議録

◎ 全体会議

1 開会

会議の成立を報告

2 諮問

「野々市市こども計画」の策定について山口副市長より池田会長へ諮問

3 副市長挨拶

山口副市長挨拶

4 委員紹介

委員、事務局職員紹介

5 報告

「野々市市子ども・子育て支援事業計画」の実績報告について

説明【事務局】 資料2に基づき説明

【委員】

資料の説明で、ファミリーサポートセンターの子育てのお手伝いをしてくださる協力会員さんが増加したことについては、皆様のご努力が実ったなど、本当に思います。

説明のあった、病児保育事業の実績にありましたアンマッチ件数についてご説明いただければと思います。

もう1点、13事業に追加して2事業をしていただいておりますが、専門の資格を持った方々の採用も進んでおられるようで、合計6名を採用なさったということです。具体的にどのような専門資格を持った方々であったかを知りたいと思います。

最後に発達相談センターについてですけれども、どのようなペアレントプログラムを組んでいらっしゃるのか、これも少しよろしければ教えいただければと思います。

【子育て支援センター菅原所長高山委員】 アンマッチ件数について説明

子育て支援センター菅原では昨年度まで病後児の受け入れの予約時の条件として、病後児でありますので、平熱であることを条件に受け入れをしておりました。

市内にある病児保育施設「ポニーぼっしゅ」さんでは、病児保育を扱っているのですが、そちらの方では37度5分以下になると、病児ではないということで、利用ができなくなってしまうという保護者さんのお声をたくさんいただきました。そうすると、私たちが平熱と言っているおおむね、37度前後の狭間にいるお子さんはどうすればいいのかというお声をたくさんいただいていたものですから、今年度、病後児保育の受け入れの要件の見直しを行いまして、予約時に37度5分以下であれば受け入れするということに見直しをさせていただきました。

この見直しを行ったことで、アンマッチ件数の減少に繋がっているのではないかと考えております。

説明【事務局】

次に採用した専門の資格を持った6名の内訳でございますが、社会福祉士、保育士など、子育て支援課の職員が対応しております。

次にペアレントプログラムの内容につきましては、子育てが難しいと感じている家族や発達障害のお子さんのいる家庭に対して、その家族支援として子育てに向き合う方法を学ぶプログラムを実施しております。

ワンクール6回で発達相談センターの職員、臨床心理士が指導しています。

【委員】

資料9ページの(12)、実費徴収に関わる補足給付を行う事業についてなのですが、対象となる方の選定方法、選定基準など、可能な範囲で教えていただけますでしょうか。

説明【事務局】

実費徴収に係る補足給付の対象者については、生活保護を受けている方となっております。

6 議事

「ニーズ調査」 「子育て支援に関するアンケート」〈就学前児童の保護者用〉について
説明【事務局】 資料3に基づき説明

【委員】

おおまかな調査件数の説明はありましたが、もうすこし具体的な件数を教えていただけますでしょうか。

説明【事務局】

資料3、4それぞれで1,000件程度と考えており、ある程度の回答を得る必要がありますので、調査件数は増えることはあっても減ることはありません。

【委員】

調査項目数の28項目について、だいたい当初からこれくらいの項目数に抑えようという予定だったか。もう少し項目が多く、30項目を超えてもいいかなと思っていましたが、だいたい書きやすいように項目数に抑えたということでしょうか。

説明【事務局】

今回はWEBでの調査となりますので、この項目数でも少し多いかと考えています。WEB調査で項目数が多いと途中で止めてしまう方が出てくると考えられることから、実際はもう少し調査項目少なくするか、質問を簡単するほうが回答しやすいのではと考えており、皆様のご意見をお聞きしたい。

【委員】

項目数は少ない方がいいと思います。資料の施設名の書き方など、いくつか気が付いたことがありますので、後ほど、事務局へお伝えするようにします。

【池田会長】他にご意見はないようですが、質問数について、今の事務局から説明のあった項目数で良いかどうかの挙手で確認したいと思います。

《委員の挙手多数により、この項目数で承認》

「子育て支援に関するアンケート」〈小学生の保護者用〉について
説明【事務局】 資料4に基づき説明

【委員】

資料4は小学校保護者用、資料6は小学校5年生、中学校2年生の保護者用のアンケートとなっており、確認ですが、小学校5年生の保護者は2つのアンケートに答えることになるのでしょうか。

説明【事務局】

小学校5年生保護者の負担が大きくなりますので、小学校5年生には資料5、6のアンケートのみの回答してもらうように考えています。資料4は、1、2、3、4、6年生に回答をお願いしたいと考えています。

「子どもの生活実態調査」〈小学5年生・中学2年生の子ども用〉について
説明【事務局】 資料5に基づき説明

【委員】

このアンケートはWEBでの回答になると思いますが、各学校のChromebook（タブレット端末）での回答を想定しているのでしょうか。

説明【事務局】

Chromebookでの回答が良いかどうかは検討が必要ですが、WEB回答を考えています。

【委員】

問2の「あなたは週にどれくらい、食事をしていますか」の問について、もうひとつ、祝日の昼食という項目が必要ではないでしょうか。

説明【事務局】

ご意見を踏まえ、検討させていただきます。

【委員】

子どもたちがWEBで回答することについては、家で回答することも考えるとネット環境のない家庭もあるかと思うので、私はあまりお勧めしません。
小学校5年生と中学校2年生を選んだ理由を教えてください。

説明【事務局】

小学校5年生と中学校2年生の選定については、対象を絞らずに幅広く聞くことも考えられますが、全国的に同様のアンケートを行う際には、小学校5年生、中学校2年生を対象としていることから野々市市も同様としました。
WEB回答につきましては、紙の場合、集計のこともありますので、WEB回答で行いたいと考えていますが、今回のご意見を踏まえ、検討させていただきます。

【委員】

アンケートに答えるにあたり、問2「あなたは週にどれくらい、食事をしていますか」とありますが、例えば「あなたの1週間の食事の回数を聞きます」というようにもう少し、問いかけるような暖かなわかりやすい文章がいいと思います。下の表を読まないと、設問の日本語を読んだだけではわからないと思います。
回答の1～4の数字は「7日食べる」の回答を数字の1を選んで回答するのは混乱することが考えられます。例えば回答をA, B, Cにするなど子どもたちが適格に答えられるよう

にして欲しい。

2 ページの問 7 の 10 項目以外にも「おうちの方と 1 日にあったことをゆっくり話して聞いてもらうことがあるかどうか」、「買い物に連れて行ってもらえるか」というように生活の実態を問うときに、聞く項目があるのではないかと思います。

問 8 については、「あなたは自分専用の食器を持っていますか」といった設問も重要です。

問 9 では、回答項目に図書館がないのはおかしいと思います。設問が多いのは大変だが、もう少し幅広く聞く必要があるものもあるのではないのでしょうか。

問 12 の設問の中の問 14 は問 11 の間違いではないか。

問 14 では、ヤングケアラーのことになるかと思いますが、「ゆっくりすごす」「ゲームがしたい」とかいうことも項目として必要ではないかと感じました。

問 19 では、学校の授業についての項目で「わからない」という言い方は子どもたちが何をもって「わからない」と判断するのはもしかすると難しいかもしれません。

問 23 では、誰に相談しようと思いますかの回答項目で「塾、習い事の先生、学童保育の先生、地域の人など」を一括りにするのはいけないと思います。例えば、学童保育の先生に相談したいという思いが強い場合、8 番を選ぶだけでは現れてこない。この項目も少し配慮が必要かと思います。

説明【事務局】

問 12 の設問の中の問 14 は問 11 の誤りです。訂正させていただきます。

設問の聞き方について、その他、各設問でいただきましたご意見を踏まえ、事務局で検討させていただきます。

【委員】

問 2 については、食べる回数が多いほど答える数字を大きくすれば良いかと思います。他の設問も同様にすれば答えやすいかと思うので検討いただければと思います。

昨年度、小学校 5 年生に質問調査をする機会がありました。野々市市ではなかったのですが、校長先生と質問の回答方法の相談をすると、タブレット端末で回答するのは難しいと言われました。教師がつきっきりでないと答えられないと言われたので、かなり質問数を減らしてわかりやすくしました。中学生は答えられるかと思いますが、小学生は保護者と一緒に答えるという方法もあります。しかし、保護者と答えると小学生の本来の実態が答えに出てこないことも考えられ、何処で回答するか考える必要があると思います。自宅で答えるのであれば保護者が付く必要がありますし、学校で答えるのであれば先生が付く必要があるのではないのでしょうか。

【館野小学校校長小山内委員】

学校現場としては、このアンケートの回答に 20～25 分くらいかかるかと想定しますが、小学校 5 年生であればタブレットで十分答えられるかなと思いますが、先生が補助しないと、設問によっては小さいことで引っかかったり、質問が出たりするので、丁寧に 1 つ 1 つ言っていないと小学校 5 年生は答えられないものもあるかと思います。事務局で精査した 27 項目かと思いますが、学校としては、わかりやすい記載にして、質問は少なければ少ない方が助かりますが、先生が説明しながらでないと小学校 5 年生は難しいと思います。

【委員】

他の市町で設問数が 40 項目のところもあったので、27 項目であればまだいいかなと思いました。

【委員】

27 項目は少ないと思いますが、選択肢が多いので、選択肢を少なくした方が良くないかなと思いますが、実態を把握するにはこれくらいあった方がいいと思います。

説明【事務局】

答え方、選択肢等のご意見を踏まえ、出来るだけ多くの方に答えてもらえるよう、答えやすい方法等について検討させていただきます。

「子どもの生活実態調査」〈小学 5 年生・中学 2 年生の保護者用〉について

説明【事務局】 資料 6 に基づき説明

【委員】

アンケートの最初に「学校からアンケート用紙を持ち帰ったお子さんのことです」と記載がありますが、紙での回答の想定なのかWEB回答なのかの確認です。

小学校 5 年、中学校 2 年の兄弟がいた場合、質問は違いますが保護者は 2 つのアンケートを答えることになります。このような場合、長子のアンケートを回答するようにするのかについて、アンケートに示した方が良くないのでしょうか。

説明【事務局】

最初の回答方法については、WEB回答を想定していますので、「学校からアンケート用紙を持ち帰ったお子さんのことです」の記載は削除させていただきます。

次にご兄弟の場合については、保護者の方の負担を考慮し、どのように答えてもらうかについて事務局で検討させていただきます。

【委員】

問 9 の e のきちんとしかっている項目で「きちんと」といった言葉は抽象的でわかり難いので、省いていただければよいかなと思います。

説明【事務局】

ご意見を踏まえ、答える方にわかりやすく配慮するよう検討させていただきます。

「子ども・若者意識調査」〈18 歳から 39 歳〉について

説明【事務局】 資料 7 に基づき説明

【委員】

この調査は、子ども関係では行ったことのない調査となりますので、設問は事務局で精査されていると思いますので、とりあえずこの内容で良いかなと思いますが、「いしかわ結婚・

子育て支援財団」もこのような調査をして、データを持っていると思われるので、最終的にはそのデータとの比較を試みることも必要ではないかと思います。

プレコンセプションケアで妊娠できる健康な体作りというような、その辺の分野には踏み込んでいらっしゃらないが、それで良いという考えでしょうか。必ずしも必要であるかというところではあります。

説明【事務局】

現段階では考えていませんが、他の市町や皆さんのご意見をいただきながら設問を付け加えるかどうか検討していきたいと思っています。

7 その他

- ・令和6年度子ども・子育て会議スケジュールについて

説明【事務局】 資料8に基づき説明

《質疑なし》

8 閉会